

ハイライト



インドは、6つの改革を実施することにより2年間連続にトップ10位に入ったため、南アジアで最上位にランク付けとして、23ヶ国を飛躍して世界銀行のビジネス環境指の77位でランク付けられました。著しい改善は、ビジネス（事業）の開始の事業開始の容易さ、建設許可の処理・取得および国境を越えた貿易の促進です。インドが建設許可の取得手続きを合理化し、長期的な責任のある保険を導入して建設の品質管理を改善したので、建設許可の対処は去年の年末に181位から52位に跳ね上がりました。改善されたランキングは、総選挙に先立ってナレンドラ・モディ首相の政府に対する感情を高めるのに役立つと思われます。（出典：BloombergQuint）

IMFは、投資と消費が強化されることにより、インドの成長率が廃貨やG S T革命後に国の経済克服を反映して2018年に7.3%、2019年に7.4%に増加すると予測していました。予想通りにすれば、インドは2018年に0.7%、2019年に1.2%の成長率で中国を抜いて、世界で最も急速に成長している主要経済国のタグを取り戻すでしょう。（出典：BloombergQuint）

インド準備銀行は、公開市場操作を実行し、資金のためのホリデーシーズンの需要を満たすために11月に政府証券の購入を通じてシステムに40,000クロー（551億米ドル）を投入します。RBIは、システム流動性が2018年～2019年の後半に赤字になると事前に予測していました。それは、進化する流動性条件に応じて、両方の一時的かつ耐久的な流動性管理のための手段の選択を決定します。（出典：インド準備銀行）

UNの投資動向モニタリングのレポートによると、世界の対外直接投資が41%減少した時点で、220億米ドルのFDIを集めたことから、インドへの投入は、2018年上半期に増加しました。外国直接投資は、米国の親会社がトランプ行政の税制改革の後に系列会社からの蓄積された外国の収益を本国に送金したもので、2017年の同期間に41%増の794億ドルから470億ドルに減少しました。発展途上経済はアイルランドやスイスなどの国に比べて、FDIフローがわずかに減少しています。（出典：BloombergQuint）

図1：民間部門への銀行貸出（%/y,3ma）



出典：CEIC、資本経済学

インドの民間部門への銀行貸出率は2014年9月以来最も速く増加しました。予備容量は縮小していて投資のピックアップのために熟した条件を残して、ピックアップの上昇傾向がさらに進むことを示唆しています。新しい合衆国破産法や資本再構成策などの銀行部門の浄化改革は、より強力な貸出を支えているバランスシートに重要なプラスの影響を与えているように見えます。銀行貸出の回復は、IL&FSグループの大規模な債務不履行のニュースに続いて資金調達コストが急激に上昇したインドの非銀行金融会社（NBFC）からの貸出の減速を相殺します。IL&FSグループを国有化することに関する政府の決定は、規制要件を満たさない31の小さなシャドー・バンクのライセンスを取り消すというRBIの発表とともに、影の金融からじる経済的リスクを抑えるのに役立つと判断されています。（出典：CEIC、資本経済学）

重要な情報

この報告書は、株式単元のオファーを構成するものではなく、勧告または意見書または広告でもありません。これは何らかの証券の利率や価格の起こり得る将来の動きに関する何らかの予測や表示の性質を持つものではありません。上記の報告書の内容は、特定の目的、経済状態、そしてこの報告書を受け取る特定の人の特定のニーズを顧みず、情報提供のみを目的としています。何らかの証券や有価証券への投資と本文書に言及されている投資戦略の妥当性に関しては、助言を求めるべきであります。当社がお客様の投資問題を解決するうえでお役に立てる方法について詳しくお知りになりたい場合にはUTI 資産担当者にお問い合わせ頂くか、www.utifunds.com をご覧ください。